

令和３年度スマート水産業推進事業のうち漁獲情報デジタル化推進事業のうち
かつお・まぐろ漁業用操業データ入力用アプリケーション設計・開発実績報告書

住所 神奈川県横浜市神奈川区新浦島町１－１－２５
テクノウェイブ１００ ６階
漁獲情報デジタル化推進事業共同研究機関
代表機関
国立研究開発法人 水産研究・教育機構
代表者 理事長 中山 一郎

１ 事業の実施状況

ア 調査項目及び調査対象

令和３年度スマート水産業推進事業のうち漁獲情報デジタル化推進事業のうちかつお・まぐろ漁業用操業データ入力用アプリケーション設計・開発仕様書に基づき事業を実施した。

イ 事業実施期間

令和３年４月１日～令和４年３月３１日

ウ 事業の成果（又はその概略）

- １．かつお・まぐろ漁業における漁獲量の集計システムの構築として、近海はえ縄用の漁獲情報管理Webシステムを構築した。
- ２．かつお・まぐろ漁船から提出される漁獲成績報告書を直接遠洋はえ縄漁獲情報管理Webシステムへ取り込む機能の作成として、漁獲成績報告書様式（Excelシート）をシステムに直接アップロード（登録）できる機能を作成した。
- ３．遠洋はえ縄漁獲情報管理Webシステム上で取り込んだデータを修正できる機能の作成として、システム上に修正画面を作成し、航海情報や操業情報の登録状況を確認しながら直接登録データを修正できる機能を作成した。
- ４．魚種ごとの漁獲量を集計できる機能の作成として、指定魚種について任意の組み合わせや条件での出力を可能とする機能を作成した。
- ５．登録している特定の漁船や航海を照会可能とする機能の作成として、個々の条件に即したデータ抽出を可能とするため、登録状況照会機能及び提出状況照会機能において、特定の漁船や航海を照会可能とする検索機能を作成した。
- ６．可視化によるデータ利活用手法について、ICTを活用した漁場の見える化技術に向けた検討として、可視化によるデータ利活用に応用可能な技術の文献の調査をしてレポートにまとめた。
- ７．蓄積された各種データからの漁場予測手法等の研究・開発として、既存の漁場予測手法の文献調査を行ったほか、現状蓄積されているデータを用いての、ICTを活用した漁場の見える化に向けた漁場予測手法等を検討してレポートにまとめた。

8. 生産者に対する開発したシステムの利用普及として、中央および地方でシステムの操作説明会を開催して利用普及を図り、漁業者のヒアリングを実施して将来的なシステムの利便性向上に向けた意見を収集した。
9. 開発したシステムを運用するサーバにおける運用・保守として、遠洋はえ縄漁獲情報管理Webシステムを運用するサーバに近海はえ縄漁獲情報管理Webシステムを構築できるようにした。
10. 遠洋はえ縄漁獲情報管理システム全体の運用として、遠洋はえ縄漁獲情報管理システム全体への問い合わせ対応、紙媒体での提出された遠洋はえ縄船漁績原票のデータの入力、特殊データへの対処、漁獲情報管理Webシステムにおけるエラーチェックを行った。